

「いきもののいのち」 (1時間扱い)

1 教材の特徴

学習内容の
系統性

「生命の尊さ」に関しては、幼稚園から中学校までの新学習指導要領（幼稚園教育要綱）に記載があります。小学校でいうと、低学年では、自分の身の回りにいる動物の生命のあり方について考えることを通して、「生きることのすばらしさ」について考えていきます。中学年では、自分の命について焦点を当てることにより、「生命の尊さ」について考えていきます。そして、高学年になると、生命の多様な側面（神秘性や有限性等）から、生命についての理解を深め、命の大切さを考えていきます。

学習指導要領の
おさえと性質

「この内容項目は、主として人間の生命の尊さについて考えを深めることが中心となりますが、生きているもの全ての生命の尊さも大切に考えなければなりません。生命の尊さを概念的な言葉での理解とともに、自己との関わりで、生きることのすばらしさや生命の尊さを考え、自覚を深められるように指導することが求められます。」

(学習指導要領解説 特別の教科道徳編p.64)

低学年の段階で
の本内容項目の
取組
中塚晃典(2007)

低学年の段階においては、命の尊さを、知識としてよりも命そのものを実感させていく必要があります。「命は大事か」と問えば、「大事」と答えることは明白ですが、どうして大切なのかを問うと、返答しづらいという実態があります。そのため、低学年では、自分の身の回りにいる生き物に触れた時の温かさ、育てた時の感情、枯れたり死んでしまったりした時の気持ち等を考えることを通して、命について考えさせるのが、低学年の子供の実態に即していると言えます。

生活科との
関わり

前述の通り、低学年においては、身近な動植物との関わりをもつことで、より効果的に生命の尊さを感じることが出来ます。身近な動植物との関わりは、低学年においては、生活科であさがおを育てるという経験と、道徳科における生命尊重を効果的に関連付けることで、児童の生命尊重の意識を継続して高め、日常生活に生かすことができるであろうと考えます。中塚晃典(2007)によると、児童の発達段階に応じた命の視点で教科領域の学習を繋ぎ、学習内容を深めることにより、児童が生命尊重の意識を継続し、自らの日常生活を見直すことができるようになるとしています。

幼児教育
↓
スタート
・カリキュラム

中心となる概念

そこで、本単元では生活科との合科・関連的な指導をしていきます。本単元は、生活科の中では、内容項目(7)動植物の飼育学習内容の系統性・栽培の内容にあたります。「幼児期に育成したい10の資質」の中の「自然との関わり・生命尊重」との系統性を大切に、今年度本校で作成したスタート・カリキュラムの流れから本単元を合科・関連的に設定しました。幼児期に生まれた身近な動植物に親しみをもって接する心や生命の尊さに対する気付き、身近な動植物をいたわったり大切にしたりする活動を、生活科での飼育・栽培活動につなげるため、スタート・カリキュラムの「学校探検」の一部である校外探検の中で、学校周辺の自然に目をむけ、自然に対する気付きを大切にする活動を行いました。子供たちはスタート・カリキュラムの中で、自然に対するたくさんの気付きや学校園を整備してくれている用務員さんとの出会いなどから、「自分たちも何かを育てたい。」という思いや願いをもち、あさがおの栽培をスタートさせています。

道徳の「いきもののいのち」では、これまで生活科においての、あさがおへの関わりと、資料を関連付けて考えることによって、生命尊重の心情を高めることを目指します。そして、道徳的実践意欲を高め、生活科においてより一層あさがおに愛情を注ぎ、大切に育てていくようになることを目指します。

また、あさがおのお世話の終末には、命の連続性に気付くことができるようにしていきます。

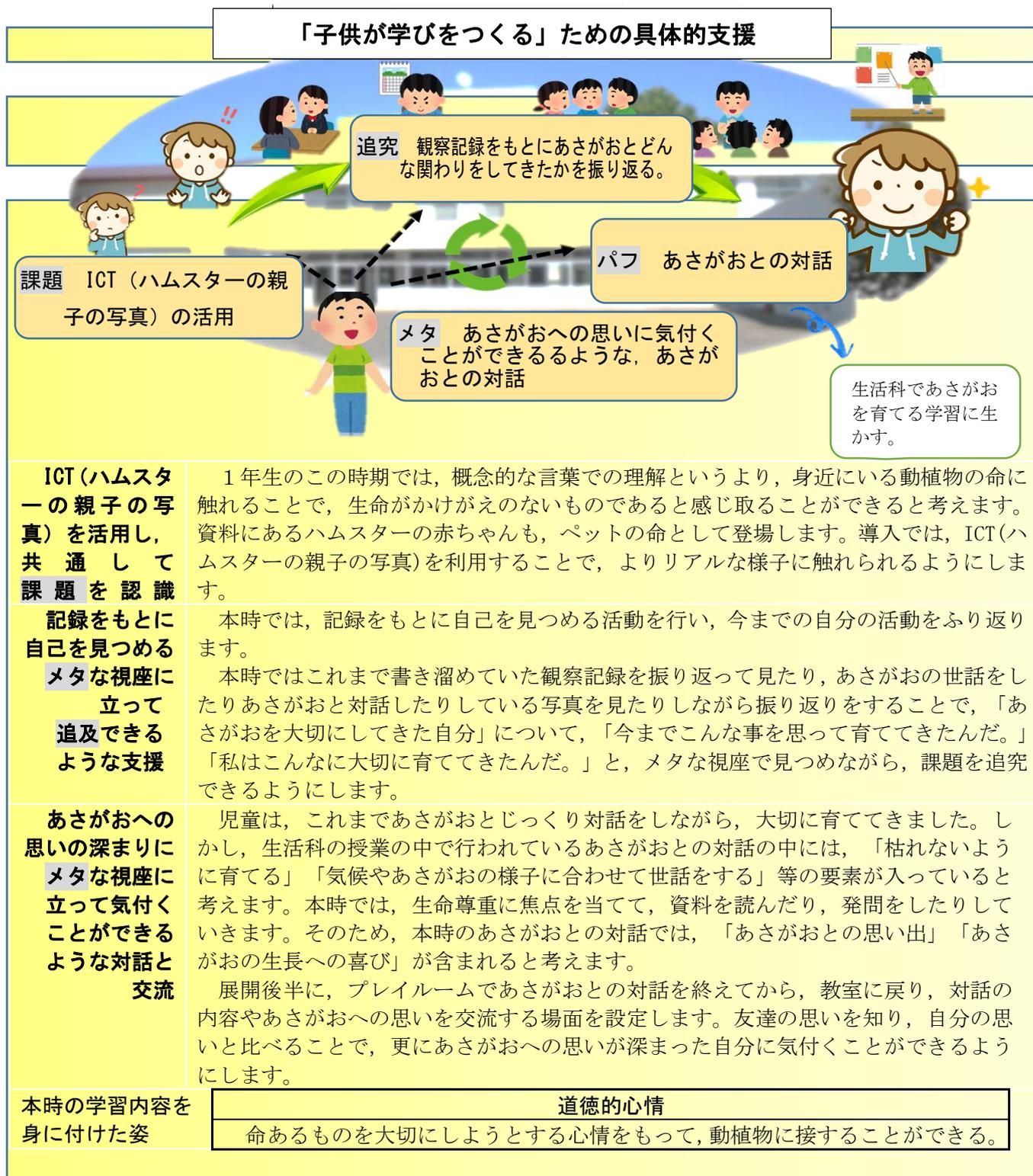
2 本時の目標と学習内容を身に付けた姿、具体的支援（課題設定、追究、パフォーマンス、メタ認知）

ねらい

ハムスターの赤ちゃんが一生懸命生きている様子や、自分が生活科で育てているあさがおへの思いから生命のすばらしさを感じ取り、動植物を大切にしようとする心情を育てる。

本時で鍛える見方・考え方

命あるものを大切にしようとする心情をもつことができる。



3 本内容項目における学びの文脈（D 主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること〔生命尊重〕）

幼児期

環境

(5) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。

きれいなお花だな。

虫さんにえさをあげて大切に育てよう。

☆ 遊びの中で動植物と関わることにより、生命を大切にする気持ちをもつ。



低学年

身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。

生活科

身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分達の遊びや生活をよりよくするようにする。

小学校学習指導要領生活科 第2章第2節「学年の目標」より

☆ 身近な動物の命を通して、生命の尊さについて考える。

大切に花を育てよう。

心臓がどくどくしている！生きていて、すごい！



生活科との合科・関連的指導

うまれたてのいのち、動物や植物、赤ちゃんの命を感じるとともに、自分自身が元気でいられることを喜び、すべての生命あるものを大切にしようとする心構を育てる。

ハムスターの赤ちゃんが一生懸命生きている様子や、自分が生活科で育てているあさがおへの思いから生命のすばらしさを感じ取り、かけがえのない生命を尊重し、大切にしようとする心構を育てる。

生命尊重
特別の教科 道徳

種まき
発芽

開花

種取り

あさがおの栽培
生活科

種に名前をつけて、子供として育てる意識をもたせる。

取れた種が次代の親になること、命の連続性に気付かせる。

中学年

自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。

☆ 自分の命について焦点を当てて、自分の命を大切に一生懸命に生きるすばらしさを考えさせる。

多くの人に支えられて生きているんだ。

小さな生き物も一生懸命生きているから、大切にしよう。



高学年

自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。

☆ 生命のもつ神秘性や有限性、連続性、死とのつながりなど、生命の多様な側面について考えさせる。

限りある命を大切に生きたら。

私達の命は、ご先祖様から受け継がれて、そして子や孫へとつながっていくんだ！



4 本時案

<p>本時のねらい</p> <p>ハムスターの赤ちゃんが一生懸命生きている様子や、自分が生活科で育てているあさがおへの思いから生命のすばらしさを感じ取り、動植物を大切にしようとする心情を育てる。</p>	<p>学習活動(○)と子供の姿</p> <p>教師の支援(☆, 課題, 追究, パフ, メタ)と評価(◇)</p>
<p>1. ハムスターの親子の写真を見る。</p> <p>生まれたばかりなんだね。 小さいね。 かわいいね。 お母さんが大切にしているね。</p>	<p>課題 全員が共通した認識で課題を捉えられるよう、ICT(ハムスターの親子の写真)を活用する。</p>
<p>課題 いのちについて 考えよう。</p>	
<p>2. 教師の範読を聞く。</p> <p>○ ハムスターの赤ちゃんに掛けたい言葉を交流する。</p> <p>がんばって! 早く大きくなってね!</p> <p>お母さんに大切に育ててもらってね! そのかわいさで、みんなを幸せにしてね。</p>	
<p>3. ハムスターの赤ちゃんを飼ってみたいという意見に注目し、自分にも動植物を育てられるかどうか考えるよう促す。</p> <p>死なせてしまうかもしれない。 今ぼくらはあさがおさんとお話をしながら、大切に育てているよ。 あさがおさんのお世話を毎日できているから、ハムスターも飼えるかもね。 大切にすれば育てられるかもね。</p>	<p>メタ 自分が今、いろんな人に教えてもらったり、相談したりしながら、あさがおを育てているということに、資料(ハムスターの赤ちゃん)と関連付けて気付くことができるような問い返しをする。</p>
<p>4. 今自分が大切にしている、あさがおとの思い出を振り返る。</p> <p>こんなに小さかったんだね。 初めて「あさこ」を触った日のことを、まだ覚えているよ。</p> <p>枯れそうになった時は、とても心配をして、たくさんお水をあげたよ。 大切にしたらからこんなに育ったんだね。</p>	<p>追究 メタ これまで大切に育ててきたことを振り返ることができるよう、あさがおアルバムに綴ってある種や観察記録カードを見たり、育てている場面の写真を見たりしながらペアで話し合うよう促す。</p>
<p>5. 改めて自分が育てているあさがおと対話し、話した内容や感じたことをペアで交流する。</p> <p>こんなに小さかったんだね。 初めて「あさこ」を触った日のことを、まだ覚えているよ。</p> <p>枯れそうになった時は、とても心配をして、たくさんお水をあげたよ。 大切にしたらからこんなに育ったんだね。</p>	<p>メタ あさがおに対する思いをメタ認知できるよう、対話や交流の時間を十分に設ける。</p>
<p>6. 本時の学習から考えたこと、思ったこと、これからしていきたいことを全体で交流する。</p> <p>これまであさがおの葉の数や大きさを観察していただけだったけれど、今日初めて気持ちを通じた気がしたよ。 あさがおもハムスターも、小さいけれど大切な命なんだね。</p> <p>お世話をすれば、ぼくらも命を育てられるんだ。 これから、動物の命も植物の命も今までよりもっと大切にしていきたいな。</p>	<p>メタ 本時の学びを実感できるよう、板書に注目するよう促す。</p> <p>◇ 全体での交流を通し、動植物を尊重し、大切にしようとする心情をもつことができる。</p>

